

## 「あいち環境づくり推進協議会」会議録

日 時：令和3年7月19日（月） 午前10時30分から午前11時30分まで

場 所：愛知県自治センター4階 大会議室

出席者：構成員 18人、事務局職員 6人、傍聴者 0人

概 要：

### 1 開会あいさつ

岡田愛知県環境局長

### 2 議事

#### (1) 構成員紹介

出席した構成員から、自己紹介及び団体の取組紹介があった。

#### 【主なコメント】

##### (愛知県町村会 事務局長 宇佐見氏)

町村間の連絡調整、地方自治の振興の業務を行っており、愛知県町村会自体は、環境に対する取組を行っているわけではなく、県内の町村行政の中で様々な取組を行っているところである。

県内町村に対する伝達事項や、町村から情報提供していただきたいこと、町村への協力要請があれば、事務局までご一報いただきたい。

##### (環境省中部地方環境事務所 環境対策課長 曾山氏)

脱炭素の先行地域をどうやってつくっていくかが最大のミッションとなっている。加えて、環境アセスメントや大気汚染防止法、水質汚濁防止法の規制管理の部分も同時に行っている。

“環境づくり”には、様々な分野が、様々な形でつながり合っており、我々の環境対策課が、中部地方環境事務所の中で一番関わりを持つ課であると認識している。

本協議会を通じて、様々なご意見をいただきながら、この地域での脱炭素の流れを促進していきたいと考えている。

##### (愛知県公立高等学校長会 事務局長 加古氏)

高等学校の教室には、ゴミ箱が4つぐらいあり、ゴミの分別回収に取り組んでいる。照明や冷暖房の使用削減にも取り組んでいる。

また、教育科目の公民の中に「公共」という新しい科目が加わり、多角的な環境教育が行われている。また、保健や家庭科、総合的な学習の時間においても環境教育が取り込まれている。

さらに、校内・校外の緑化活動、清掃活動にも力を入れており、「SDGs みらい甲子園」に参加する学校も多くなっている。

**(愛知県小中学校長会 会長 鈴木氏)**

小中学校については、県内全体で何か行っているというわけではなく、持続可能な社会の実現に向け、それぞれの学校の実情に応じて、大切だと思える取組を進めているところである。

**(一社) 中部経済連合会 エネルギー・環境部長 山口氏)**

昨年秋の菅総理の「カーボンニュートラル宣言」や、昨年末からグリーン成長戦略が大きく動き始めたといったことを受け、「今後のエネルギー政策に関する提言書」を取りまとめた。

この提言書の中で、団体の取組として「循環経済型社会の構築に向けた取組」「マイクログリッドの社会実装に向けた取組」の2つを掲げている。マイクログリッドについては、その理解促進のために会員向け、関係者向けの導入ハンドブックを作成したところである。

**(愛知県商工会連合会 専務理事 伊藤氏)**

コロナ禍の中、昨年来より非常に厳しい経営環境にある小規模事業者の方々に向けて、持続化給付金、雇用調整助成金、応援金・協力金の手続き支援などを行っている。

そのような中、環境問題までも手が回らない事業者が多く、団体としては、SDGs や地球温暖化問題などの理解醸成、周知を図っていければと考えている。

**(環境パートナーシップ・CLUB 総合事務局長 小坂氏)**

企業トップが環境問題について語り合える場の創出、循環型経済社会の構築を目指して、中部地区の産業界を中心として2000年に発足した組織である。

環境経営、低炭素、資源循環、自然共生をテーマとした分科会活動を中心として、企業が培ってきた環境技術、会員間の連携を生かして持続可能な経済社会の構築を目指している。

**(一社) 循環資源再生利用ネットワーク 専務理事 長谷川氏)**

食品リサイクルを中心に、環境保全や食品ロスの削減の取組を進めている。特に、食品工場から排出される食品由来の廃棄物について、養豚業者のもとへ届け、飼料として活用を進めている。

畜産業界では近年、鳥インフルエンザや豚熱が猛威を振るっており、高いレベルでの飼料衛生管理が求められる状況にあり、会員間での連携のもと取組を進めているところである。

**(愛知消費者協会 会長 吉田氏)**

環境は消費者として一番関心が高い部分であり、これまでも食品ロス削減やマイバッグ運動に取り組んできたところである。

最近では、ゴミを出さない調理会や、プラゴミ削減に向けた取組を県内5支部に分かれて進めているところである。また、会員向けのSDGs勉強会や、県民向けの年1回の「消費者のつどい」も開催している。

超高齢化社会を迎えるにあたり、消費者へ情報をどう拡散していくかに力を入れている。協会として何か協力できる部分があれば協力をしていきたいし、皆様からのご指摘やご意見あれば教えていただきたい。

**(愛知県生活協同組合連合会 専務理事 後藤氏)**

100万人を超える会員に向けた物品供給の中に、エシカル消費として生協ならではの商品の整備を進めている。

環境づくりの推進については、生協活動についても重要な柱の1つであり、全身全霊をかけて取り組むべきものと考えている。

2か月に1回、理事会を開催しており、本協議会に関する情報については、理事会に共有を図っていきたい。

**(愛知県女性団体連盟 会長 加藤氏)**

我々は、様々な目的を持った団体の集合体であるが、各団体の中には環境を大きな問題として取り組んでいる団体もいる。

年2回の研修会の中にも環境をテーマとして学ばせてもらっている。また、本協議会に関する情報については、加盟団体への伝達、共有を行っている。

**(愛知県青少年団体連絡協議会 会長 井上氏)**

環境教育の啓発として、毎月1回の定例会において県の「環境かわら版」を活用した啓発活動を行っている。昨年は、国連地域開発センター所長をお招きしてSDGs普及促進のための講演会を開催した。

また、加盟団体のボーイスカウト愛知連盟では、清掃活動の実践や植樹活動への協力を行い、ガールスカウト愛知連盟では、常滑市において海岸清掃を実施した。今後もSDGsに関連した取組を進めていく予定である。

**(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 会長 齊藤氏)**

様々な環境課題に対応できる多様な人材が会員になっている。団体としては、エコアクション 21 の地域事務局を担っており、環境省、県の啓発事業にも参画・協力している。10 月の「SDGs AICHI EXPO 2021」にもブース出展予定であり、県の「三河湾環境再生プロジェクト」にも参画しており、日々活動を行っているところである。

**(（一社）環境創造研究センター 専務理事 清本氏)**

愛知県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、県内の地球温暖化対策の普及啓発を行っている。小学校向けの「ストップ温暖化教室」や各自治体と連携して環境イベントでのブース出展を行っている。また、「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」と題して、県内の小学生を対象に、夏休みに親子で温暖化対策について考え、具体的な行動を実践いただく取組も展開している。

それから、環境省中部環境事務所より中部環境パートナーシップオフィスの運営を仰せつかっており、地域の環境保全のための協働の取組、ESD の推進、ローカル SDGs の展開など取組を進めているところである。

本協議会では、これらの取組を進めるうえでのご意見やアイデアを頂戴したいと考えている。

**(（一社）中部 SDGs 推進センター 代表理事 戸成氏)**

企業、経済団体、行政に向けた年 100 回ほどの SDGs に関する研修会を実施している。加えて、年間 10 社程度、企業の SDGs 宣言の策定支援も行っている。また、最近では、CDP への回答書、スコープ 1、2、3 の実績報告に関する CO<sub>2</sub> 排出量の算定業務の依頼が多くなっている。

**(愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 委員長 竹内氏)**

元々、ESD（持続可能な開発のための教育）を進めてきたが、国連の ESD の 10 年が終わり、翌年に SDGs が採択されたことを契機に、現在は、SDGs の取組を進めている。

教育、地域連携、社会連携の分野で取組を進めており、SDGs に関連する取組を進める大学の研究室、サークルを対象に年 2 回の発表の場となるリレーシンポジウムを開催している。このリレーシンポジウムに県が実施する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の成果発表会が位置付けられている。

**(ビオトープ・ネットワーク中部 会長 長谷川氏)**

団体として、生態系ネットワークの構築や学校ビオトープのアドバイスを日本生態系協会と連携して行っている。個人としては、SDGs の覚え歌などを通して、市民の方々と生きものを繋げる活動を行っている。

(2) 第5次愛知県環境基本計画の概要説明

資料1に基づき、事務局から説明を行った。出席者からの質疑等はなし。

(3) 今後の協議会の進め方について

資料2に基づき、事務局から説明を行った。出席者からの質疑等はなし。

(4) その他

資料3、4について、事務局から説明を行った。出席者からの質疑等はなし。

以上